



令和 8 年度 体育科実践・研究計画

部 員 ○山田 幹 佐々木 駿斗

I 体育科における 自律した学習者の姿

- 1 自分（たち）のできることでできないことを捉え、自ら課題を設定し、運動に挑戦する姿
- 2 自他の課題解決に向け、適切な場や練習方法を考え試行したり、動きのこつを基に仲間に助言したりしようとする姿
- 3 共有されているこつの中から、自分（たち）の課題解決に使えるこつを見付け、活用する姿

II 体育科における 授業デザインの取組

- A 自分（たち）の現状や単元のゴールを知るために、試しの活動を行ったり、手本を演示したりするなど、願いや思いをもって活動に取り組むことができる導入
- B チームや自分の課題解決に向けて、自分（たち）が取り組みたい活動場所や活動内容を選択決定できるような場や時間の保障
- C 自分（たち）では解決できない課題の解決方法や動きのこつを共有できる時間の設定
- D 共有した動きのこつの必要性や有用性が確かめられるような場の設定や仕掛けの工夫

III 1・2 年次研究で生成した仮説

	問題解決に没頭する子どもの姿 (数字は、自律した学習者との関連)	要因・手立て (英字は、授業デザインの取組との関連)
一 年 次	運動経験の差に関係なく、チーム全体が動きのイメージを共有し、課題解決のために考えて動いた姿（2、3）	子どもから出た動きのこつを、子どもから出てきた言葉のままカード化して共有し、子どもに馴染みのある名称でいつでも確かめたり、共通認識したりできる場を整えたこと（C、D）
	勝利につなげるために自分や相手チームの特徴を捉え作戦を考えたり、仲間の思いに必死に応えるために試合中に自分に何ができるか考えて動いたりした姿（1、2）	試しのゲームを基に技術面や行動面のバランスを考えチーム分けをした。よかった場面や困った場面を共有した後に作戦タイムを設け、理想のプレーと実際の状況をすり合わせできる場を整えたこと（A、B、C）
二 年 次		

IV 1 年次研究の課題と、改善するための手立て

	課題となった子どもの姿 (数字は、自律した学習者との関連)	改善するための手立て (英字は、授業デザインの取組との関連)
一 年 次	多様で的を射た動きのこつが全体で共有されたが、その中から自分（たち）の課題解決のために必要なこつや有用性のあるこつに気付かず、活動が停滞した姿（2、3）	共有した動きのこつを実際に試し、よさを実感できるように、プレーのポイントを絞ったミニゲームを行い、こつを駆使する場を設けたり、ゲーム中に実際にあった場面を基に、解決するために有効な動きのこつを検討する時間を設けたりする。（B、D）